

『とつとつダンス part2 愛のレッスン』
巡回公演アフタートーク ゲストプロフィール

【大阪公演】10/3(金)19:00～、5(日)14:00～

10月3日(金)アフタートークゲスト

志賀玲子(しが・れいこ)

(財)地域創造／公共ホール現代ダンス活性化事業コーディネーター。岩下徹ソロダンス制作。2005～09年度大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任教授。90～07年度伊丹市立演劇ホール(アイホール)プロデューサー。00～07年びわ湖ホール夏のフェスティバルプログラムディレクター。03～05年度京都造形芸術大学舞台芸術研究センタープロデューサー。これらの仕事を通して、関西のコンテンポラリーダンス状況活性化のための公演・ワークショップなどの企画を製作、アーティスト育成・観客創造などに努めた。05年6月より、神経難病ALS発病の友人の支援開始。京都／西陣で織屋建の町家を改造し、ダンスの稽古場を併設した空間で、24時間他人介護による独居生活<ALS-Dプロジェクト>をコーディネート。ホームヘルパー2級。08年より能囃子幸流小鼓、12年より観世流謡・仕舞を稽古中。

10月5日(日)アフタートークゲスト

平尾 剛(ひらお・つよし)

スポーツ教育学者・ラグビー元日本代表。1999年ワールドカップに出場。2001年・2004年には神戸製鋼コベルコスティーラーズで優勝。現役引退後はスポーツ教育および身体論の研究に携わる。選手晩年に患った「脳震盪の後遺症」を機に「身体」への思索を始め、長年取り組んできたスポーツ科学に基づくカラダ作りを見直すべく、日本古来の身体技法である武術の考えを取り入れながら研究している。著書に『合気道とラグビーを貫くもの』(内田樹との共著)。初の単著である『近くて遠いこの身体』は近日刊行予定。現在は神戸親和女子大学講師。日本ラグビー協会 普及・競技力向上委員会 情報科学部門委員。

【東京公演】 11/28(金)19:00～、29日(土)15:00～、30日(日)15:00～

11月28日(金)アフタートークゲスト

西村ユミ(にしむら・ゆみ)

看護師・看護学研究者。2000年日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了、博士(看護学)。神経内科病棟にて2年間、看護師として働いた経験をもとに、遷延性植物状態患者の看護ケアの意味を哲学的(現象学、身体論)な視点から探究し、『語りかける身体』(ゆみる出版)を上梓。その後、多様な看護師たちの実践を記述し紹介してきた。2006年から大阪大学コミュニケーションデザイン・センターに在籍し、身体・ダンスワークショップなどの企画にも携わる。現在は、「協働」をテーマとして、病院の看護実践を研究中。2014年には『看護師たちの現象学』(青土社)を出版。首都大学東京大学院人間健康科学研究科教授。

11月29日(土)アフタートークゲスト

松田正隆(まつだ・まさたか)

劇作家、演出家、マレビトの会代表。1962年、長崎生まれ。京都市在住。90～97年まで劇団「時空劇場」代表を務め、劇作・演出を手がける。94年『坂の上の家』で第一回 OMS 戯曲賞大賞受賞。96年『海と日傘』で岸田國士戯曲賞受賞。97年『月の岬』で読売演劇大賞作品賞受賞。98年『夏の砂の上』で読売文学賞受賞。2000年には京都府文化奨励賞を受賞。劇団解散後、フリーの劇作家として、青年団、文学座、演劇集団円などに作品を書き下ろしている。舞台戯曲の他、黒木和雄監督作品『美しい夏キリシマ』にて映画脚本を手がけ、『紙屋悦子の青春』は原作として映画化されている。2003年8月より劇団「マレビトの会」を結成。マレビトの会の代表作に『cryptograph』(07)、『声紋都市-父への手紙』(09)、写真家笹岡啓子との共同作品『PARK CITY』(09)、『HIROSHIMA-HAPCHEON : 二つの都市をめぐる展覧会』(10)、『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』(12)などがある。

11月30日(日)アフタートークゲスト

山田創平(やまだ・そうへい)

社会学者／京都精華大学人文学部准教授。1974年群馬県生まれ。名古屋大学大学院博士課程修了。文学博士。専門は都市論、地域研究。厚生労働省所管の研究機関や民間のシンクタンクなどを経て現職。共著書に『ミルフイユ 04-今日の作り方』(赤々舎、2012)、『ミルフイユ 05-技と術』(赤々舎、2013)、『ジェンダーと「自由」-理論、リベラリズム、クイア』(彩流社、2013)などがある。2008年に名古屋大学名誉修了者に選ばれている。特定非営利活動法人アート NPO リンク理事、大阪市現代芸術創造事業実行委員、京都市若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり事業(HAPS)実行委員。京都造形芸術大学、京都産業大学非常勤講師。また近年は国内外のさまざまなアートプロジェクトでリサーチやコンセプトデザインに関わり、自らもインスタレーションやパフォーマンス、舞台作品の制作を行っている。

【仙台公演】 1/24(土)14:00～、25(日)14:00～

1月24日(土)アフタートークゲスト

濱口竜介(はまぐち・りゅうすけ)

1978年、神奈川県生まれ。2008年、東京藝術大学大学院映像研究科の修了制作『PASSION』がサン・セバスチャン国際映画祭や東京フィルメックスに出品され高い評価を得る。その後も日韓共同製作『THE DEPTHS』(2010)、東日本大震災の被災者へのインタビューから成る映画『なみのおと』『なみのこえ』、東北地方の民話の記録『うたうひと』(2011～2013/共同監督:酒井耕)、4時間を越える長編『親密さ』(2012)を監督。砂連尾理を劇中ダンス振付に迎えた中編『不気味なものの肌に触れる』など精力的に新作を発表し続けている。現在は神戸に拠点を移し、新作『BRIDES (仮)』を制作中。

1月25日(日)アフタートークゲスト

鷲田清一(わしだ・きよかず)

哲学者、大谷大学教授。1949年生まれ。京都大学文学部卒業、同大学院修了。大阪大学総長を経て、せんだいメディアテーク館長。これまで哲学の視点から、身体、他者、言葉、教育、アート、ケアなどを論じるとともに、さまざまな社会・文化批評をおこなってきた。主な著書に、『「聴く」ことのカ——臨床哲学試論』(阪急コミュニケーションズ、桑原武夫学芸賞)、『モードの迷宮』(ちくま学芸文庫、サントリー学芸賞)、『「ぐずぐず」の理由』(角川選書、読売文学賞)など多数。